

表紙の“人” Mr.フィギュア

今月の一言



余談ですが連勝記録を作りました

30年ぶりに最多連勝記録更新した藤井聡太四段が佐々木勇気五段に30連勝を阻まれましたが、前代未聞の29連勝記録を達成した14歳にまずはお疲れ様と言いたい。世は将棋教室が満員になるほどの熱狂ぶり。藤井くんを取り上げたNHKの「クローズアップ現代+」は今年最高の番組視聴率（関東地区9・8%）である。このバレー時代には、僅か縦1尺5寸（約45・5cm）、横1尺4寸（約42・5cm）の盤上での営みに老いも若きも熱くなる日本人。大和魂のようなものを感じてどこか嬉しい。

さて藤井くんは小生同様、愛知県の生まれ。地元に話題の人物が出ると大概が『さすが信長、秀吉、家康の3英傑輩出の地やね』と言われる土地である。神童と言われる彼はまだ中学生。その頃の小生

といえば、勉強もそれなりにはしていたが、なんとなく流されて過ごしていた。大した大志もなかった自分の過去が恥ずかしい。

それにしても昨今の若年層の活躍は凄まじい。藤井くんの将棋を始め卓球、フィギュアスケート、ゴルフ。小生もゴルフは嗜むが、何年も成長なくクラブを振り回すだけ（見て見ぬ振りなら得意ですが）。この歳で上達しなければもう体が追いつかないという危機感から、最近、今更ながらゴルフ道場に通い始めたが、そのレッスンプロ曰く、子供のパッティングの感覚はあきれれるほど凄いとのこと。大人は余計な雑念で真っ直ぐな球が打てないのだろうか。

さて将棋由来の言葉はたくさんある。特に駒の中でも一番地位の低い歩は、その特性から話題が多

いキャラ駒だ。読んで字の如く一歩ずつ進みながら、局面によっては攻め筋が開ける重要な存在であり、また歩が1つ無いために受けが効かないなど一歩千金の効果をだす。「歩のない将棋は負け将棋」と言われるようにあらゆる局面に活躍し、敵陣にたどり着けば「と金」に大化けする。現代が求める多動力、柔軟な進化を遂げる、まさにベンチャーといえよう。

歩といえ、帰国した五郎丸歩もヤマハ発動機でもう一度自分を作り直し日本代表復帰に意欲を示している。将棋用語で表現すれば、「後手に回らぬ」よう「先手必勝」。「手筋を見間違えず」マスコミによる「番外戦術」に惑わされないよう、決して「高飛車」にならず、お得意のルーティーン、「定跡」（ちなみに囲碁では定石）でもう一度大活躍を期待したい。

言う。昨今のヒアりにひやり。ダジャレで済まないから要注意だ。また、最強の将棋ソフトと評判のelmo。しかしその開発者はなんと全く将棋は指さならしい、小生には理解不能で「もうAI！」と叫びたい。将棋の思い出といえ、長女が幼い頃、いつも遅い帰宅を待っていてくれて将棋で遊んだことを思い出す。娘は必ず負けると「もう一回！」。仕方なくこちらがわざと負けると怒る！そんな負けず嫌いは、5人の子たちとなった今も健在なのが可笑しい。それでは、ますますの藤井聡太四段の活躍を祈りつつ、以後は、囲碁で？ また次回。

Mr.フィギュア 本誌の表紙に登場した一見あやしい、どこか可愛い、中年男性。愛犬チャーチルとはいつも一緒。その正体は、実在するビジネスマン恒川憲一氏をモデルに作られたフィギュア。月刊正論の表紙とこのコラムで、厳しく優しく、ダジャレをオシャレに織り交ぜた温かいメッセージを、読者のみなさまに届けている。

恒川憲一氏 つねかわけんいち クリエーター。株式会社シーエムバー代表取締役社長。大阪芸術大学デザイン科を卒業後、広告代理店勤務を経て独立。15年間、絶えずフィギュアを持ち歩き撮影し、ダジャレを考えている。このコラムの真の執筆者。著書に『フオックス』、『一息』（セルバ出版）。



P.S 余談ですが、五郎丸歩フィギュアを作りました。まもなく発売、乞うご期待！（詳しくはミニチュアファクトリー）